

■■■ 河童の話 ■■■ == =>三州横山話より

■ 河童ではないか ■



大荷場川が寒狭川へ流れ落ちるところを獅子岩と言って、そこを一町ほど降りると、先に言った二ノ滝がありますが、今から約五七、八年前、二ノ滝の上の淵の岩に髪をきれいな禿にした、五、六歳とも見える子供が腰かけているのを、私の父が見たと言いましたが、その時傍にいた人が、あそこに河小僧がいると言って騒いだので、たちまち川の中へ飛び込んで再び姿は見せなかったと言います。

■ これもその類か ■

八名郡山吉田村の豊田新右衛門という酒屋の裏の小川に、権現淵という淵があって、その淵では毎日夕方になると、杵で臼を搗くような音がしたと言います。その家や附近のものは、その音で、雨の降る日などは夕飯の時刻を知ったほど永い間続いたと言います。するとある時この後家が、月のものの汚れを洗いにその淵へ行くと、傍らの岩の上に一〇歳ぐらいの美しい童子が腰をかけていたそうですが、女の姿を見ると、淵の中へ飛び込んでしまったので、薄気味悪く思って荒いものも忽々にして家へ帰ると、心持が悪いと言って床について、家のものにその話をすると、家内中が不安に思って、満光寺という寺の住職を招いて相談すると、何らか不祥の前兆かも知れないとあって、翌日その淵で施餓鬼を行って、旗などを淵に流したそうですが、その頃から夕方にはかならず聞こえた音もしなくなって、淵もいつとなく浅くなってしまったと言います。その頃からその家の家運も次第次第に衰えて不幸のみ続いたと言いました。およそ百年ほど前のことだそうですが、その淵は現今幅三尺ほどのあるかないかの流れになっています。